

猛暑が株価上昇の足掛かりとなる可能性 -夏の天気と日本経済・株価の関係を検証-

全国3ヵ月予報（8-10月）が、気象庁から発表されました。向こう3ヵ月の気温は、日本全国で平年より「高い」確率が50%以上となっており、例年以上に暑い夏が続くことになりそうです。

今回、今後の相場展開を占う観点から、夏の気候と経済や株価に関係があるのか、過去のデータから検証を試みました。

猛暑が景気にプラスとなる可能性も

年間の平均気温が、2016年まで3年連続で上昇しています。年々暑さを増しており、今年も暑い夏が予想されます。

1994年から2016年までの7-9月期の実質GDP成長率（前期比）と、各年の8月の気温と30年平均値との差を比べたところ、緩やかな相関がみられます（図表1）。

気温が高くなったことによって、清涼飲料水や酒類、アイスクリームの売上げが伸びるなど、消費が活発になった可能性があります。また、エアコン等の家庭用耐久財の売上げ増加が影響していることも考えられます。このように、気温は景気に対して、影響を与えるものと考えられます。

猛暑の後は株価上昇か

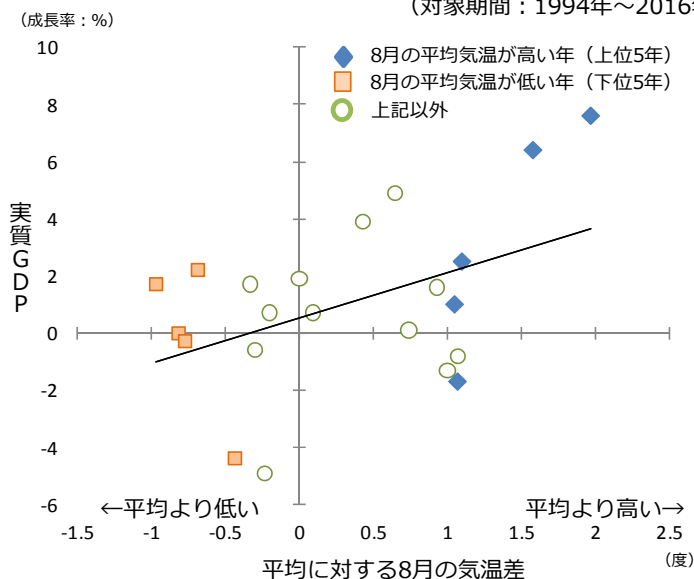
夏の気温とその後の日経平均株価の関係をみると、気温の高い年のほうが、低い年よりもリターンが大きい傾向にあるようです。8月の気温の上位5年、下位5年を抽出し、8月末から12月末までの日経平均株価のリターンを単純平均して比較検証しました（図表2）。1970年から2016年の日経平均株価の8月末から12月末までの平均リターンが+1.9%であったのに対し、8月の気温の上位5年は+11.5%、下位5年は▲2.8%となりました。気温が高ければ、リターンも高いという傾向が観察されます。

天候以外の様々な要因が影響した可能性には留意が必要なものの、東京の日照時間でも検証を行ったところ、日照時間の上位5年のリターンの平均は+7.2%、下位5年は▲5.1%と同様の傾向がみられ、夏の天候が景気や株価に影響する可能性があると思われれます。

予想される今年の猛暑が、景気の拡大や株価の上昇に寄与することが期待されます。

（図表1）8月の気温とGDP成長率の関係

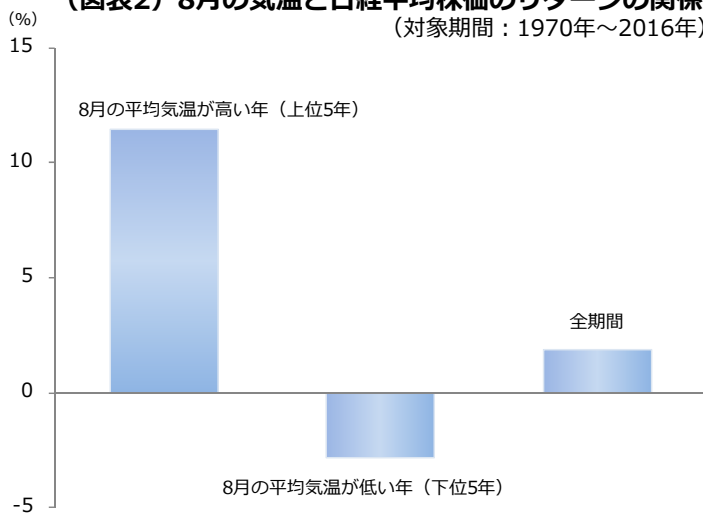
（対象期間：1994年～2016年）



（注）気温は1981-2010年の30年平均値からの乖離。GDPは7-9月期（前期比:年率換算）。直線は全要素の回帰線。2011年は震災による影響を考慮して除外

（図表2）8月の気温と日経平均株価のリターンの関係

（対象期間：1970年～2016年）



（注）日経平均株価の平均リターンは、8月末から12月末までの騰落率。（出所）図表1,2ともに気象庁、Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

以上（作成：投資情報部）

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）
- お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
 純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）
 ※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料**
監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）
 ※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
 ※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社
 事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
 加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）